

幼児の交友指導の実践

—母親と子どものグループ活動をとおして—

神村杏子

幼児は、すべてのことをあそびを通して吸収するといつても過言ではない。それゆえ、幼児教育にたずさわるのは、このあそびの重要性について真剣にとり組み、研究することを課題としていかなくてはならない。殊に最近のように、兄弟数が少なく一人っ子の多い家族構成の中では、幼児が没頭してあそべる環境はますます阻害されている。それに加え、最近の母親たちの中にはゆがんだ教育熱から、幼児を一時も早く高い文化水準に引きあげようとして、口やかましく干渉する者が多いので、子どもが知的に偏りすぎて、行動が鈍く、体力が弱くなつていく憂うべき現象が見られる。そして子どもが小学校へ入学校になると、母親たちは他の子どもの学業成績を比較することに気をとられ、一年生で、二年のドリルをやらせるなど、成績偏重主義に陥り、子どもたちは塾通いを強いられている。その結果、子どもたちはあそびひまがもてなくなっている。

このような現状を憂え、この問題に何とかとり組んで、子どもをあそびの世界にもどすため、そして母親の教育に対する考え方を、他の子どもと共に自分の子どもを育てていく姿勢に変革していくため、園外の家庭交流の指導を始めた。

実践の記録

一、四月新学期から夏休みまで

四月、入園進級間もないころに、あまり顔見知りでない母親たちの顔合わせのため、クラスの人形つくりや修理などをしてもらう。残り布や古毛糸などをもって、子どもが園に行つている間に、母親たちはどこかの家に集まり、人形つくりをしながら互いに子どもの話をしあい、交流のよいきつかけをつくっていく。

四月の終りから始まる家庭訪問で交友関係の調査をし、各家庭へ、子どもの性格、社会性、地域などを考慮して適当と思われる友だちを何人か紹介する。

五月の母の会では、幼児のあそびがその発達にどれほど重要なものであるかを話し、交流の具体的指導をしながら、一方、保育中に見られるあそびの観察から、交われる友だちを家庭に連絡する。五月の遠足も母子で参加し、おべんとうも自由あそびも交流のためのよい機会にするよう、特に呼びかける。

五月の半ば頃から、遠い地域の子どもは一たん家に帰ると友だちのうちへあそびに行けないので、家庭同士相談しあって、教師にも連絡があつた場合には、園からの帰り直接その友だちのうちへあそびにいけるようにさせる。給食のない日は特におべんとうをもつて友だちのところへ行ったり、あずかる家でお昼ご飯を用意する場合もある。日頃母親だけを相手にうちにで食事をするよりも、ずっと食欲が出るようで、どちらの母親からもよろこばれている。消極的で社会性のおくれている子どものうちへは、まず友だちに来てもらうことから始める。そして友だちのところへ行く時は最初母親といつしょに行く。そのうちに友だちとあそぶおもしろさがわかり、次第に自信がついて、

気の合つた近所の友だちといつしょに、大分遠いうちへもあそびにいけるようになる。そして園でも友だちが増えて、積極的にあそびに参加できるようになる。

二、夏休みの地域活動

長い夏休みを任意で交流するだけではなく、通園の各地域の単位で一回または二回、親子で集まり親睦をはかる。田園地区からバスで通園する地域、(2)、住宅地(5)、市街、商店街、(3)

こうするうち、母親も次第に親しくなり、町の子どもにはできない経験をさせようと、地域によっては苺つみや山登り、わらびとり、貝拾い等に数人の子どもを招いて世話をする家庭も出るようになり、やがて夏休みを迎える。

その間、具体的な交流の指導をプリントにして流したり、母の会のたびに気づいたことを話し合ってきた。例えば、

- 1 おやつや食事等虚栄をはらないように、長くつきあうために特に注意。
- 2 子どもなりのエチケットを身につけさせる。

△自分の友だちを家の人に紹介する。

△さわっていけないもの、入っていけない部屋等約束し守らせる。

△挨拶をする。

△片付けはみんなです。

3 大切な問題は話しあえるように信頼関係をもつ。

4 帰りはどちらかが迎えるかまたは送りとどける。

5 帰りの時刻は五時、冬は四時半頃がよい等である。

の地域別に分かれ、地域の委員を中心に七月の夏休みを迎える

までに活動計画を相談し、これには必要に応じ教師も加わる。

計画表を一応教師が目を通し、時間や距離、内容を検討し注意を加え実施してもらうことにする。

A 地域の例

日時、八月三日 九時～一四時三〇分。

場所、錦川、桜土手。

内容、九時、集合。

九時二〇分、おにごっこ。

一〇時、くじ引き、おやつ。

一〇時三〇分、自由あそび。

一一時三〇分、昼食。

一二時、休憩、童話を読んでもらう。

一三時三〇分、親子のゲーム。

一四時三〇分、おやつ、解散。

分担、あそびの係、H男、T生、S子の母。買い出し、T雄、T子の母、炊き出し、残りの母。

経費、一人当たり五〇円、（米別）

感想、全員参加できてよかったです。戸外のござの上でしたゲームが楽しく、親しさが急に増した。

全部のお母さんが仕事を分担し、足りないものを補い、よく協力できることはうれしかった。

B 地域の例

日時、七月二九日 九時～二時。

場所、橋の下、（徒步で五分か一〇分）

内容、九時、集合。石集め、めだかすくい。

一〇時、おやつ。

一〇時三〇分、宝さがし。

一一時三〇分、おべんとう。

一二時、ござでお昼寝。

一三時、水あそび。

一四時、解散。

感想、通園の時挨拶をする程度の人とも、親しく交わされてよかったです。これからも機会を見て集まりたいと思う。

C 地域の例 第一回

日時、七月二六日 一〇時～一六時。

場所、S家。

内容、一〇時、集合。戸外の芝生で自由遊び

一一時三〇分、昼食、チキンライス、野菜サラダ。

一二時、休憩。

一三時三〇分、フィンガーベイント。終わつたものからゴムブールで水あそび。つづいて入浴。

一五時すぎおやつ、みつまめ。

一六時、解散。

感想、小さいクラスの人とあそぶことができて楽しかった。

第二回。

山へお弁当持参で蟬とりの予定が雨降りでK家に行き楽しくあそぶ。

日時、八月二三日 一〇時～一五時。

内容、午前中時間を利用してボール投げ、鉄棒などを親子でする。お部屋でお弁当。午後色紙の切抜き。レコードの鑑賞。五月の遠足のハミリ映画を見る。三時におやつを食べて解散。

感想、親も童心にかえって楽しかった。

年長グループ活動の例（五名）

第一回

日時、七月二二日 九時～一五時三〇分。

内容、九時、集合。自由あそび。

九時三〇分頃からダンボール箱貼り。各自持ち寄った包装紙、千代紙、はさみなどをつかって貼る。

一〇時三〇分、片付けおやつ～お菓子とジュース。

一一時過ぎ、ジュース工場見学、たくさんの中のジュースのびんに吃驚。

一二時、昼食。カレーライス、全員食欲旺盛。

一二時三〇分、お昼寝、童話を読む。

一四時、近くの校庭で自由あそび。

一五時、M家で入浴、朝貼った箱をお土産に解散。

第二回

日時、八月二日 九時～一五時。

場所、K家。

内容、九時、集合。自由あそび。

九時三〇分、ピスケット作り、粉ふるいからバターの泡立て、みんなじっと見つめ、教えられた通りにすく。わが子だけではとてもこんなことはできない。めう指導している。

次の活動例を地域活動に比較すると、プログラムの時間割り等はあまりかわらないが、内容的に年長としての深まりが見ら

れる。

ん棒で伸ばしてやると、好きな形に抜いたり、粘土の

ようにこねまわし、舟やお花をつくる。自分の作った

ものを何度も確認しあって所有を明らかにする。オーブンに入れ、鉄棒やなわなどしながら焼けるのを

待つ。焼けたてをおやつにして食べる。午前中自由あ

そび。

一二時過ぎ昼食、オムライス。

一三時、おひる寝、本を読む。

一四時、お風呂で水あそび。

一五時、ビスケットをおみやげに解散。

第三回

日時、八月九日 九時～一五時三〇分。

場所、○家宅。

内容、九時、金員集合。買物ごっこ準備、買物かご、お

金、お菓子、お花づくり。特にセメントを型にはめこんでしばらくおいて抜き出すお花の鉢づくりは、金員で参加。

一二時、昼食、チキンライスとサラダ。食欲旺盛。

一二時四〇分、昼寝、本をよむ。

一三時三〇分、買物ごっこ。せまい庭いっぽいにござを敷いて、おもしろい会話がつづく。お金再発行しては、あそびは発展する一方、とどまるところがない。

一五時三〇分、おやつ、解散。

第四回

日時、八月二三日 九時～一五時三〇分。

場所、F宅。

内容、九時集合、ちえの輪つなぎ。

一〇時半、近くの校庭で大あばれ。

一二時、昼食、おはぎ、ハムエッグ、果物。

午後、電話つくりをして、思い思いの話のやりとりにふき出すことしばしば。

一五時、おやつ、すいか。

一五時三〇分、解散。

第五回

日時、八月二六日 九時～一五時。

場所、お城山。

内容、九時、A家集合、出發して山の下の公園に行く。虫とり。

一一時三〇分、ロープウェイでお城山に登る。（ロープウェイで五分、歩いて登って三〇分位の山）

一二時、昼食、サンドイッチ。外で食べるのをよろこぶ。

一二時三〇分、自由あそび。葉っぱの切符でバスごっこ、すべり台はターザンごっこ。

一五時、下山。解散。

感想

- 1 友だちの中であそぶ子どもの姿がわかつて、よかつた。
- 2 一週一回にしたのは、ダラダラしやすい夏休みの生活のボイントになつてよかつた。
- 3 昼食を、あずかった家で用意したのが大変であつたから、お弁当にした方がよい。
- 4 三時解散にしばられて、午後の遊びが、中断してしまつので、もう少しおそい時間に帰宅させてもよかつた。

B グループの例（七名）

第一回、楠水泳場（樹齢五〇年位の楠の大木密集）

最初の集まりなので家族ぐるみ参加、泳いだり、砂絵を描いたり、西瓜割りなどし、目的通り子どもも親も親しくなることができた。

第二回 山の下の公園。

虫とりやゲーム、外でおべんとうを食べるのをよろこんだ。

第三回 山登り。

海や川もよいが、山も涼しく、蟬の抜けがらを見つけたり、珍しい蟬を見つけたり、大きな蝶を見つけたり、子どもには珍しい物でいっぱいであった。

第四回 紅葉谷公園（徒步で一五分位の所）

午前中家中で自由あそび、十一時頃おべんとうを持って公園にいき、ボール投げやなわとびをし、木かげで涼しくすご

し、帰宅してみんなでお風呂に入つて解散。
お母さんの話し合い。

第一回

- 1 子どもたちがグループの集まりをとても楽しみに待つた。
- 2 日数が、反省の日を含めて五回は、四〇日の夏休みにちょうどよかつた。
- 3 一回にお母さんが二人ずつ責任をもつたことはよかつた。
- 4 どこに行く時も水筒をもつて行つたのはよかつた。
- 5 お弁当を持って行つたのはよかつた。
- 6 その日係りのお母さんを、先生と呼ばせたら注意も徹底してよかつた。

C グループの例（五名）

第一回

日時、八月一八日 一八時～二一時。

内容 一八時、集合。お昼寝は各自宅ですまし、錦川、川原

に集まる。鵜飼の見学をし、鵜のお話を聞く。

一八時四〇分、近くの城山にロープウェイで登頂。

一九時、お弁当の夕食後、川に流す紙の舟を折る。

二〇時、ロープウェイで下山、すっかり日が暮れ、美しい岩国の夜景を楽しむ。

二〇時一五分、鵜飼舟を遠く見ながら川原で花火。水に映つて一層美しい。包装紙で作った舟を川に流す。

二時、解散。親にとつても、子どもにとつても涼し

く楽しい夏の夜であった。秋にはまたお弁当をもって山登りをすることを約束して錦帯橋の下で分かれる。

以上母親の報告より。

その他

デパートの買物。おにぎりつくりなど、日頃一家庭で味わえない経験をすることができる。

夏休みが終わって、二学期のはじめに委員会を開き、夏休みの過ごし方を反省した。また実施責任者に活動の反省、感想、報告を書いて園に出してもらい、全部の母親からアンケートをとって、反省のよい資料にし、来年に備えることにしてある。

夏休みのこの活動を経験することによって二学期に登園してきた子どもに一andan成長のあとが見られるようになつた。一般に問題にされているような夏休み明けのだれなどはなく、例えれば、遊びに積極的に入れるようになつたり、意思表示がはつきりできるようになつていて、また片付けを自分の責任として見違える程積極的にとりくむようになつて、などである。

二学期以後も交流は年齢なりにつづけられ家庭同士の親密度は、次第に高くなつて来ている。

四、交流によって得られた効果

1、消極的な子どもが積極的になった。また虚弱な子どもが健康になり、身心のバランスがとれて来た。

2、一学期間のこれらの交流によって、親同士の親密感が深められた。例えば互いに子どもを預り合い、上の子どもの学校参観にいったり、また施設への奉仕活動ができるようになった。

3、小学校でも積極的に友だちをつくっていく姿勢が見られる。

4、小学校では参観日に子どもの授業のようすを参観しているだけである。他の母親と話し合う機会も、場も与えられないのととても淋しい思いがするが、園で交わっていた母親同士が、同じ問題について話し合つたり、はげまし合うことができる。

5、子どもの一方的な報告をきいても、冷静に受けとり、相手の子どものことを考えることができるようになつた。

五、今後に残る問題

1、年寄りがいる家庭の交流、せまい家、商家、共稼ぎの家庭の受け入れをどのようにするか。

2、消極的な母親の参加について。

年々積み重ねていくことによって、これらの問題の解決を見出して、よりよい交流により、ゆがめられた社会から子どもを守り導いていきたい。

卒園後も小学校、中学校と進んで行つても、これまで育てられた連帯感をもちつづけ、本当の意味での教育がなされることを願うものである。

(岩国幼稚園)